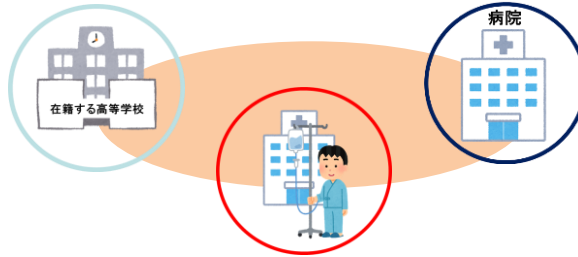


## 教育の提供までの流れ



- 「把握」、「コーディネート」、「教育の提供方法」の3つの重要なステップがある。



1

1st step

### 入院した高校生を把握する

- 現在、多くの教育委員会が教育支援を行った高校生などの把握に努めている。
- しかしながら、年度毎の支援実績調査による把握が大多数で、入院時点でリアルタイム把握している都道府県は、まだまだ少数なのが現状。

「支援できたはずの生徒」をなくすために、しっかりと把握できる体制作りを進める

<理想的な1例>

網羅的な把握体制とは



2

## 2nd step

## コーディネーターを決める

- 入院した高校生などに教育支援を行うには、入院している生徒とその保護者、実際に教育を提供する高校および教諭、病状に応じて対応するために生徒の健康状態を把握している医療従事者、教育支援のために必要な環境を提供する医療機関など多くの人々が協働しなくてはならない。
- 自校の生徒が入院するという経験を持つ学校や教諭は、それほど多くない。

ある程度の経験をもつ教育委員会の職員や特別支援学校教諭などがコーディネーターとして関係者を主導し円滑に調整していくことが必要

教育委員会がコーディネーターとなる例

特別支援学校がコーディネーターとなる例  
(特別支援学校がセンターの機能を果たす)

3

## 3rd step

## 教育の提供方法を決める

- 実際の教育支援には、在籍校の教諭による訪問教育や病院の院内学級の教諭が支援するなど、いろいろな支援方法がある。
- 近年では ICT(情報通信技術)の発達による遠隔教育も重要な支援方法に。

はじめに	00	多く	7 特別支援学校高等部に転校し、週に最大30時間の授業が確保できた県立高校生	00
本書を活用していただくために	00		8 県立通信制高校への転校で単位認定が受けられた県立高校普通科の3年生	00
〈事例概要表〉好事例の特徴	00		9 在籍校の非常勤講師が特別支援学校に派遣され対面授業を受けた県立高校生	00
行政機関における支援の重要性	00		10 実習授業に代わる課題提出により単位取得ができた県立商業高校生	00
インターネットコミュニケーションツール、システム	00		11 病室内での実習課題に取り組み環境を整え単位を取得した県立服飾学科高校生	00
OrIHime kubi ロイノート Edmodo	00		12 県教育長のトップダウンで在籍校から遠隔授業を提供された県立高校生	00
好事例			13 実技授業は遠隔授業、主要5科目は訪問授業で単位を取得した高校生	00
1 学習支援計画書に基づく自習を支援することにより単位取得ができた県立工業高校生	00		14 「長期入院生徒学習支援事業」により単位を取得した高校生	00
2 私立・公立間の隔壁がない地域で特別支援学校の教諭に支えられた高校生	00		15 遠隔教育・対面指導・余暇活動の機会を希望により体験できた高校生	00
3 治療後遺症により将来の夢を断念しつつも大学受験に臨んだ私立高校3年生	00		謝辞	00
4 ソーシャル・ワーカー (SW) が院内の高校生を把握、もろさず教育支援につなげたことで成人病棟に入院後も教育継続ができた高校生	00			
5 同年代の学習ボランティアとかかわりから将来的なキャリアビジョンを明確にできた高校生	00			
6 県教育庁主導の体制による遠隔授業により転校せずに単位取得した県立高校生	00			

4